

## 建築主体工事で増額した主な項目

増額対象項目	変更内容
基礎杭工事	浅層(地表から2~3m)に地盤の緩いところがあるため、杭打機の自重で地盤崩壊を起こした。その対策として浅層地盤改良を行い、杭頭の余盛コンクリートを増やして対応した。
山留工事(鋼矢板)	バイブロハンマー工法からクラッシュパイラー工法へ変更。 杭工事の施工中に、地中内に直径50cmを超える転石が、多量に存在することが確認できたため、バイブロハンマー工法では鋼矢板の打ち込みが不可となったため。
エントランスホール天井	ロックウール吸音板の天井から初期の設計である木製ルーバーの天井へと変更。 木製ルーバー天井の費用に森林環境贈与税が適用できたため。
相談室、会議室等の間仕切壁	間仕切壁の造作を天井まで止めていたが、上階の床下まで延長。 コストダウンのため天井止めで計画していたが、再検討を行い、各相談室、会議室の遮音性を高めるため、床下まで延長。
庁舎内の誘導点字	当初は外部(インターフォンまで)のみであったが、内部にも2階窓口までの誘導点字を追加した。
執務室等の天井	天井仕上材を化粧石膏ボードからビニールクロスへ変更。 照明、空調等の配置によりボードの目地が不揃いとなるため、景観を考慮して変更。(目地無し)

## 建築主体工事で減額した主な項目

減額対象項目	変更内容
移動式書架の中止	書庫4-1を防災備蓄倉庫へ変更し、移動式書架を中止した。
外壁面アルミサッシ	減額変更案。外面に接した全ての引違い3連窓アルミサッシを固定窓+引違い+固定窓に変更。
可動間仕切壁の中止	減額変更案。不要な可動間仕切壁を再検討し、乾式固定壁へと変更。
壁収納ステージ	議場の壇(ステージ)を収納式から固定式に変更。
風除室	減額変更案。風除室の側壁をカーテンウォールから乾式壁に変更。



変更請負増額(物価上昇分含む)

128,853,120円

## 電気設備工事で増額した主な項目

増額対象項目	変更内容
防災無線移設工事への対応	防災無線移設工事は建設工事完成後の工事であったが、建設工事期間中に行った方が良いと判断された、防災無線室移設工事の先行配線工事分。
防災無線アンテナ用ポールを購入設置	上記と同様に、防災無線のアンテナ用ポールを先行して、設置を行ったため。
委員会室の音響設備変更	当初、委員会室には個別式マイクシステムは備わっていなかったが、議場と同様の個別マイク(無線式22台)と収録システムを備えたため。
トイレ前音声案内装置追加	多目的トイレには、室内に音声案内装置が備わっていたが、協議を進める中で、室外に誘導用の音声案内装置が必要と判断したため。
入退室管理(電気錠)の変更	防火シャッター用通用口にも電気錠追加 閉庁時も市民開放を行うため、防火シャッターをセキュリティドアとして使用するため。
LAN設備の変更	協議により、特に住基系を扱う職員は作動PC 2 台のため、LANを各 1 増。

## 電気設備工事で減額した主な項目

減額対象項目	変更内容
受変電設備の見直し	減額案。コスト縮減のためコンデンサバンク数を設計基準の範囲内で縮小した。
外灯照明の削減	外構計画変更に合わせて数量を削減。
端子盤・外函の削減	庁内電話関係をLAN方式に変更したため、外函が不要となった。
電力容量計の削減	減額案。不用なテナント用電力メーターを中止。
エントランスホール天井配線の変更	天井を木製ルーバーへ変更したため、当初は天井裏配管配線であったのを、ルーバー上転がし配線へ変更。



変更請負増額（物価上昇分含む）

58,498,000円

## 機械設備工事で増額した主な項目

増額対象項目	変更内容
空調機器（エアコン）の変更	令和6年10月にメーカーのモデルチェンジにより新冷媒(R32)対応型に変更及び値上げ。旧モデル廃盤のため。
屋外空気調和器にガス漏れ遮断器(インターロック)連動装置を追加	上記冷媒の変更により空調機器にガス漏れ遮断器（インターロック）が装備されたため、それとの連動が必要となった（R32は可燃性ガス）

## 機械設備工事で減額した主な項目

減額対象項目	変更内容
空調機器内加湿用タンク付きポンプ廃止	減額変更案。更衣室の加湿機能を中止(備品対応)したため、廃止した。
雨水貯水槽の湧水ポンプの変更	減額変更案。ポンプをステンレス製から樹脂製に変更。グレードダウンした。



変更請負増額

8,835,200円

## 新庁舎建設費（原契約）

津久見市新庁舎建設(建築主体)工事	2,612,500,000円
津久見市新庁舎建設(電気設備)工事	660,000,000円
津久見市新庁舎建設(機械設備)工事	610,500,000円
工事監理委託料等	55,990,000円
合 計	3,938,990,000円

## 財源内訳

緊急防災・減災事業債	3,452,300,000円
過疎債	276,500,000円
一般単独事業債	158,500,000円
基金	51,690,000円
国庫補助	0円
市の実質負担額(基金含む)	1,328,830,000円

## 新庁舎建設費（工事変更契約後）

津久見市新庁舎建設(建築主体)工事	2,741,353,120円
津久見市新庁舎建設(電気設備)工事	718,498,000円
津久見市新庁舎建設(機械設備)工事	619,335,200円
工事監理委託料等	55,990,000円
合 計	4,135,176,320円

## 財源内訳

緊急防災・減災事業債	3,480,500,000円
過疎債	241,200,000円
一般単独事業債	278,300,000円
基金	93,246,320円
国庫補助	41,930,000円
市の実質負担額(基金含む)	1,488,056,320円

## 新庁舎移転等の関連事業（R8）

327,180,000円